

高梁市議会だより

第35号
2018年8月



全員協議会開催	2
6月定例会報告	4
第10回議会報告会開催の報告	6
管外行政視察報告	7
一般質問 ここが聞きたい	8
7月豪雨災害	14

5月25日 全員協議会

報告①

過年度災害復旧工事等における不適切な事務処理に係る再発防止策について

執行部からは、①コンプライアンス研修、技術研修等を計画的に実施すること②組織執行体系を見直し、技術職員の集中配置による組織力強化③事案発生関係課自ら実施状況を検証し、具体的な執行方法を改善し、再発防止策に取り組むこと④再発防止策の実施状況を検証して必要な見直しや改善を行うという4つの指針に基づく再発防止策を策定したとの報告がありました。

議員からは再発防止策の実効性などについて質問がありました。これに対して、二度と起こさないという決意をもって取り組むとの答弁がありました。

報告②

成羽複合施設（仮称）の建設について

執行部からは、基本設計に基づいた実施設計の途中経過の報告がありました。

議員からはバス待合所等の周辺施設を集約する点や、バスの導線を考慮した一般駐車スペース、交通安全対策について質問がありました。これに対して、施設全体を見たと上で集約をしており、交通安全対策についてはさらに詰めていくとの答弁がありました。



成羽複合施設（仮称）立面図

報告③

「旧朝霧温泉ゆ・ら」活用に向けた民間事業者意向調査について

執行部からは、施設を民間事業者などへ売却することを前提に、市場性の有無や活用のアイデアを調査する民間事業者意向調査を行い、3事業者から、高齢者の健康維持、地域の活性化、若者や外国人をターゲットとしたアミューズメント等のコンセプトに基づく3つの提案があったことの説明がありました。

議員からは実際に公募に応じてもらえるのか質問がありました。これに対して、正式公募してみないと分からないが、ヒアリングの雰囲気では応じていただけなのではないかと認識しているとの答弁がありました。

報告④

平成29年度地方創生推進交付金実施事業について

執行部からは、まち・ひと・しごと総合戦略に位置付けられた事業として「高梁発世界にアニメを発信事業」「薬草栽培産地推進事業」「官民協働による移住サポートセンター整備事業」に取り組んでいるとの報告がありました。

議員からは、実施期間が過ぎたら終わりというのではなく、いろんな方の協力もいただきながら取り組んでいってほしいとの提案がありました。



栄町商店街に整備されたアニメスタジオ

報告①

高梁市医療計画の策定について

執行部からは、平成29年度から進めてきた「高梁市医療計画」の最終報告がありました。これまで医療関係者が漠然と持っていた危機感を「高梁市医療計画」という形で可視化することができたので、今後市民の御理解と御協力を得て推進していきたいとの説明がありました。

議員からはこの計画を推進していくための予算措置について質問がありました。これに対して、検討委員会で合意を得られたものについて具体的に組み込むという手法で進めていくので、そのようなものが明確になった時には予算措置が必要になるとの答弁がありました。

協議①

決算審査の分割付託について

現在、市議会では決算審査は常任委員会とは別の決算審査特別委員会によって行われていますが、決算審査についても予算審査と同じように常任委員会に分割付託をし、予算と決算を一連の流れの中で同じ委員会で審査することにより、慎重かつ効率的な審査ができるのではないかとということから、決算審査を各常任委員会に分割して付託してはどうかという提案がありました。

議員からは、賛成意見のほか、議員全員で審査してはどうかとの意見や、慎重に審議してほしいとの要望がありました。議長からは、これらの意見も議会運営委員会に伝えるとの発言がありました。

協議②

会派制の導入について

※会派：議会内で活動をもとにする議員団体

本市では議会の活性化及び議会改革を推進するため、高梁市議会基本条例を制定しており、今回はその検証の一つとして会派制の導入について議論を行いました。

議員からは、議員として資質の向上を図ったり、政策課題について研究するためには必要ではないかとの意見がある一方で、都市部の議会と異なり議員数が少ないこと、一言で会派といっても一人会派を認めるのか、議決権拘束があるのかなど様々であり、高梁市議会が必要とされるのはどのようなものなのか明確にすべきであるとの意見がありました。議長からは、次期議会運営委員会の中で十分議論をして前向きに検討してはどうかとの発言がありました。

協議③

電子機器の議場への持ち込みについて

今回、高梁市議会基本条例の検証の一つとして電子機器の議場への持ち込みの是非について議論を行いました。

議員からは、持ち込むにしても目的や利用方法を明確にしておくべきであるとの意見や、議員間で活用能力の差があるので、ある程度使用できるように研修すべきであるとの意見がありました。議長からは再度議会運営委員会で議論するとの発言がありました。





6月
定例会

第3回定例会は5件の議案や 請願2件などを審議

平成30年第3回高梁市議会（定例）が、6月12日から29日まで開催されました。3件の報告を受け、議案5件は可決され、請願2件は不採択されました。

討論では、宮田好夫議員は、請願第1号「教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について」は、「学びの質を高める教育環境の実現のために教職員の定数を増やすことは必然であり採択すべき」、請願第2号「地方財政の充実・強化を求める」請願書については、「地方自治体が担う役割が増える中で、財源の確保はますます重要になっている。この請願は本市にとっても必要な内容であり、高梁市議会として意見書を国に提出すべき」と討論しました。

また、平松賢司議員は、議案80号「専決処分の承認を求めることについて」に反対し、2つの請願に賛成の立場から討論しました。

議案80号について、議案に含まれる専決3号「高梁市国民健康保険税条例の一部を改正する条例」に対して「これ以上の市民負担増は、病気になるっても医療機関にかかれないなど受診抑制となつて重症化につながる」などから反対し、また、日名農村プールを行政財産としての用途を廃止する議案82号「高梁市多目的集会所及び農業者等健康増進施設条例の一部を改正する条例」については、「反対ではないが、これからの地元の皆さんと今後の利用について協議を重ねていくことを望む」と討論しました。

一方、伊藤泰樹議員は、議案82号については賛成の

立場ながらも「関係者とのコンセンサスが十分になされていなかったのが気になる」ところ。行財政改革の中で今後もこういった議案を見かけるようになるかもしれない。今後の対応については注視させていただきたい」と討論しました。また、防災ラジオの購入を審議した議案83号「財産の取得に関する議会の議決を求めることについて」については、賛成ながら「旧高梁地域の第一次募集の申し込みが少なすぎるのが懸念される。広報に努めてほしい」との意見を添えました。2つの請願については、「昨年9月にもほぼ同じ内容で提出されており、内容の精査と現状分析が不足しているのではないか」という理由で反対しました。

6月定例会で賛否が分かれた議案等の議決結果

○賛成 ●反対

件名	森	平松	伊藤	森上	石部	三村	石井	黒川	石田	内田	宮田	小林	倉野	川上	川上	宮田	大月
専決処分の承認を求めることについて	○	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について	●	○	●	●	○	○	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	●
「地方財政の充実・強化を求める」請願書	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	●

◎他の議案は全会一致で可決しました。 ◎議長は裁決に加わりません。



総務文教委員会

防災ラジオの取得について

「財産の取得に関し議会の議決を求めることについて」

委員からは、本年度の旧高梁地域分の防災ラジオの申し込みがあまりにも低いという指摘がありました。旧高梁地域において申し込みが特に低い傾向が出ていること、各種広報媒体を利用して必要性を周知するよう努めたいという答弁がありました。採決の結果、可決されました。

「教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について」

毎年同じような文章で、具体的なものがない、地域的な検討がなされていない、高梁市においてはALTの独自配置、長時間労働は正のために昨年でも率先して

取り組まれており反対するという意見がありました。

これに対して、業務の持ち帰り、部活顧問の土・日曜日のボランティア出勤は無くなつてはならず、国の責任で減らしていくべきという賛成意見もありました。採決の結果、不採択となりました。

「地方財政の充実・強化を求める」請願書

全国市長会からも提出されており、高梁市があえて出す必要がない等の反対意見がありました。これに対して、自由に使えるお金が全体の6〜7%しかない高梁市において地方財政の充実・強化を求めることは当然のことという賛成意見もありましたが、採決の結果、不採択となりました。



産業経済委員会

日名農村プールについて

「高梁市多目的集会所及び農業者等健康増進施設条例の一部を改正する条例」

方向で協議を進めたいとの答弁がありました。採決の結果、可決されました。

成羽町日名にある高梁市日名農村プールに関する条例であるが、地元から使えるうちは使わせてほしいとの要望が出ていると聞いているがどうするのかという質問がありました。これに対して、平成24年の行革の中で廃止が決まっている。平成27年の指定管理者の更新の中でも、廃止の方針は伝えており、今年3月をもって指定管理を終えた。施設は築37年が経過し、安全性の確保が難しいので条例は廃止する。しかし、地域にとって重要な施設であり、

地域で管理されているとの認識はしており、すぐに利 dụngできないというわけではなく、安全に使用できる間は地元で活用していただく

また、3月の委員会審議において付帯決議が付された『岡山自動車道付加車線設置推進事業』について経過報告が行われました。執行部からは、7月から専門の部署が立ち上げられること、また残土処分場については地元からの要望による1カ所を加えて5カ所となった現在の状況について報告がされました。

各委員からは、体制整備や地権者との交渉の遅れを指摘する意見や安全対策、迅速な対応を求める意見がありました。

それを受け執行部から、本体工事等が円滑に進むよう全力で取り組むとの回答がなされました。



市民生活委員会

国保税について

「高梁市国民健康保険税条例の一部を改正する条例」

今年度から国保制度が岡山県に統合されたが、高梁市と同様医療費の高い自治体では一般会計からの繰り出しもしながら保険料率は低く抑える運営をしている。県が示した国保の運営指針では基準外繰入が認められる場合もあるので、一般会計の健全性は十分考慮しながら国保財政の運営方法を考えるべきではないかとの質問がありました。これに対して、国の定めたルールに基づいた運営をすること、が1番であると考えており、一般会計の財政状態が悪くなれば国保だけではなくそのほかの特別会計にも影響を及ぼすことになるので、今後も基準外の繰り出しは控える努力をしていきたいとの答弁がありました。



松原会場



有漢会場



中井会場

第10回議会報告会を 開催しました



中（成羽町）会場

参加者へのアンケートから

●参加人数が少ないのが気になる。
●バイオマス発電とか、木材チップとプラスチックを利用した固型燃料を作るとか、そのような施設を作ったらい。ごみの減量につながる。
●地区別にテーマを決めて意見交換をしてほ

しい。
●議員はよくやっているが、もっと地域のために動くべき。
●議会はチェック機関であると言われた人がいるが、議員は少し考えること。
●初めての参加ですが、また機会があれば参加したい。

●説明して下さる方の声、話すスピード、とても良く聞きやすかった。資料もまとめであり、分かりやすい。
●市民、企業との対話もしてほしい。

第10回高梁市議会報告会を開催しました。今回は4月18日の中コミュニティセンターを皮切りに、5月1日の三沢コミュニティハウスまで、6日間、8会場を回り延べ106名の方に参加していただきました。

意見交換会では「明日のまちづくり」高梁市行財政改革」をテーマに行い、参加者から、行財政改革について、非常に重要な改革なので議会で特別委員

日 程	時 間	会 場
4月18日(水)	19時～20時30分	中コミュニティセンター
4月20日(金)	14時～15時30分	松原地域市民センター
4月21日(土)	19時～20時30分	松山自然休養村管理センター
4月24日(火)	19時～20時30分	備中総合センター 大ホール
	19時～20時30分	順正記念館(順正寮跡)
4月27日(金)	19時30分～21時	中井地域市民センター
	19時～20時30分	有漢保健センター
5月1日(火)	19時～20時30分	三沢コミュニティ三沢ハウス

※第10回議会報告会を開催した会場

降も開催方法などを工夫していく予定です。

総務文教委員会

開催日…5月14日～15日

福島県郡山市・滋賀県草津市



福島県郡山市での研修



滋賀県草津市での研修

郡山市では「シティプロモーション推進事業」の視察をしました。人口減少社会で魅力的な街づくりを行い、市の魅力を効果的に発信し、交流人口や移住人口を増加させ、地域の活性化を目指すのが目的です。市の魅力を日本全国・世界に発信するとしてイメージキャラクター「がくとくん」の活動や、インスタグラム・ラインによる情報発信を行い、市民の誇りと郷土愛を醸成し、市の魅力アップと発展につなげています。

草津市では「草津市学校業務改善プラン」について視察をしました。プランの内容は「業務環境の改善」、教員や専門スタッフの支援など「チーム学校の推進」、住民や学生ボランティアによる「ボランティアの活用促進」などで先生が子供と向き合う時間をつくり出し、より質の高い教育の実施を目指しています。

産業経済委員会

開催日…5月27日～5月28日

長崎県諫早市・山口県宇部市



長崎県諫早市での研修



山口県宇部市での研修

長崎県諫早市では、道路パトロール支援サービスについて説明を受けました。このサービスは、道路点検の業務で道を走っている時、道路の劣化情報や走行情報を取得することで、自動的に市内の道路状態の見える化を実現するというものです。1級、2級市道だけでなく全ての市道のデータを収集でき、全体像が把握しやすいというメリットがあります。

山口県宇部市では、市民が自ら道を直す「わたしたちの道づくりサポート事業」や、市民がスマートフォンから道路状態を通報できる「ネイティブ字部」、道路維持のための優先順位の付け方など、様々な施策を学びました。

Q. 商工会議所が提出した観光行政に対する提言書の扱いは、どうなっているのか

A. 5つの提言について検討、実施している



小林 重樹

ここを聞きました

- 観光行政について
- 高梁市行財政改革プランについて
- 人口減少問題と持続可能な自治体運営について

一観光行政について

小林 昨年3月に商工会議所から観光に関する提言が出された。ハード面での取り組み状況はどうか。

産業経済部長

ハード面で5つの提言があった。

1つ目の町の駅については、民間の動きも併せて研究したい。2つ目の駐車場の確保は駅東側に71台を整備、観光タクシーや登城バス、レンタサイクルなど、二次交通も整備した。3つ目の松山城登山ルートの開拓は、遊歩道の看板設置や魅力を掘り起こすルートの設定を考えていく。4つ目の山田方谷記念館は旧図書館を整備し、10月に開館したい。5つ目の空き家、空き店舗の対策については、補助制度を設けて支援してい

て、5件が決定し、さらに5件の相談がある。

一新たな財源確保について

小林 ふるさと納税の増額に向けてどのような方策を行っているのか。また、実績はどうか。

政策監 制度が始まった平成20年から5年間は100万円から200万円であった。

平成28年9月に返礼品の拡充を図ったところ、平成29年は2700万円と増えている、今年度は、5000万円を目標にしている。

Q. CCCの行ったアンケートでは図書館利用者の満足度は高かったが、市民全般の意識をどう捉えているのか

A. 利用者満足度としては高い評価が得られていると分析している



森上 昌生

ここを聞きました

- 高梁市図書館に関して
- 不適切な事務処理に対する再発防止策に関して
- 市内の動物被害について

一高梁市図書館に関して

森上 CCCのアンケートでは、年中無休、開館時間などに対する評価は高いが、資料の数、専門スタッフの専門知識といった評価は50%前後となっている。対策は考えているのか。

教育次長 専門図書、新刊図書を増やしていきたい。

森上 市民意見には、図書館の本質に対する不満があるがどうか。

教育次長 ニーズに合った書籍を増やすなど、CCCと協議していきたい。

森上 市も独自に全市的にアンケートを行うべきではないか。

教育次長 現在行う予定はない。

森上 3階にトイレを設置する予定はないのか。

教育次長 現在は考えていない。

一不適切な事務処理に対する再発防止策に関して

森上 市民から事件の本質が見えてこないとの声がある。業者からの工事代金の請求は全くなかったのか。

副市長 議会の百条委員会の報告を重く受けとめている。我々はその内容にコメントすることは避けたい。

森上 工事代金の請求が4年も5年もないのは不自然ではないのか。

副市長 我々は事業者に対して強い権限を持ち得ず、百条委員会の報告を尊重する。

一市内の動物被害について

森上 市街地でも動物被害が報告されているが、その対処はどうか。

産業経済部長 有害鳥獣対策室へ相談していただきたい。

一使わない墓所の費用還付を

石井 落合霊園で、区画を購入しているが墓が建っていない墓所は何力所あるのか。

市民生活部長 落合霊園は、現在までに143区画を整備している。すべて永代使用許可済みだが、そのうちまだ39区画は墓が建っていない。

石井 市では墓所を使わずに返還しても、納めたお金が戻ってこない。県内には一部返還に応じている自治体もある。市も検討してはどうか。

市民生活部長 県内では、6市が還付なし。還付ありが8市ある。高梁市では、すぐ使いたい人は、上谷第2霊園に、62区画の空きがあるので、そちらを使って欲しい。

歩いて暮らせるまちづくりの実現を

石井 高梁市の公共交通は、まだ使いやすいものにはなっていない。車で動ける人はバスを使わないので、不便さに気付きにくいのではないかと。高梁市は車中心の社会ではあるが、コンパクトにまとまった城下町でもある。街中に入ってくる車を制限すると同時に、車を使うエリアとの連携に公共交通を使うことで、誰にとっても住みやすい街ができるのではないかと。

市民生活部長 現状では、車の流入を制限するのは難しいと思うが、今後の中心市街地の活性化を考えたときに、回遊性を高める必要性はある。そのために公共交通のアクセス性を高めていくのは1つの方法だと思っている。

- Q.** 未使用の墓所を返還するとき、幾らかでも還付をすべきではないか
- A.** 上谷第2霊園が空いているので、現状ではそちらを使って欲しい



ここを聞きました

石井 聡美

- 落合霊園について
- ICTを使った情報共有について
- 歩いて暮らせるまちづくりと公共交通について
- ポルダリングによる地域振興について
- 新学習指導要領への対応について

- Q.** 岡山道4車線化工事に伴う土運搬の通行車両の安全対策はどのようにするのか
- A.** 交通保安員の配置、通行時間の制限、運搬車両の速度制限など、一般車両を優先して関係団体と協議を重ねて安全確保を図る



ここを聞きました

平松 賢司

- 主要農作物種子法廃止に伴う農業への影響と市の対応について
- 岡山道4車線化工事に伴う県道の安全対策について
- 網島梁川の顕彰について

主要農作物種子法廃止に伴う農業への影響と市の対応について

平松 廃止による農業者や消費者への影響についてはどうか。

産業経済部長 国も安定的な供給のため、都道府県に対して財政的な支援措置を行う。都道府県も対応することで対策が講じられると考える。

平松 市は苗、種代の助成などについて、具体的な対応、対策をすべきではないか。

産業経済部長 当分の間、民間事業者による種子の生産への参入が進むまでは、これまでと変わらないものと思っているので、現段階での助成措置は考えていない。

岡山道4車線化工事に伴う県道の安全対策について

平松 県道栗原有漢線の拡張工事で用地買収ができていない箇所は、改良要望すべきではないか。

産業経済部長 すでに要望している。今年度約9カ月をかけて設計の見直しを行い、改良していくと聞いている。

網島梁川の顕彰について

平松 網島梁川は、歴史的な偉人であり、後世に語り継いで行くのは行政の役割である。引き続き、地域局で実務を援助できないか。

教育次長 各種団体の事務局については、有漢地域に限らず市全体で順次、各団体へ事務局を移している。

Q. 非正規職員のなかで正規職員と同様に働いている者には、同一労働、同一賃金の考え方をいれるべきではないか

A. 平成32年度から始まる会計年度任用職員制度に向け検討している



ここを聞きました

宮田 好夫

- 非正規職員の処遇について
- 教員の働き方改革について
- 行財政改革について
- 町内会支援制度について

一 非正規職員について

宮田 本市の正規職員と非正規職員は何人か。

総務部長 正規職員は646人、嘱託職員77人、臨時職員405人となっている。

宮田 非正規職員の中で、正規職員と同様に働いている者には、同一労働、同一賃金の考え方をいれるべきではないか。

総務部長 一般行政部門の事務補助職には考えていないが、現場では正規職員に近い業務を担っている者もあると思う。平成32年度から始まる会計年度任用職員制度に向け検討している。

二 教職員の時間外労働削減について

宮田 昨年から行われている時間外労働の削減の取り組み内容はどの

のようなものか。

教育長 学校の退庁時間の設定、部活のお盆の休み、校務員の兼務配置などを行った。改革は教職員だけの努力ではなく、教育委員会や管理職が行うべきものもある。

中学校体育連盟、教職員組合、PTAとも話をしながら取り組んでいる。

宮田 昨年4月から6月の時間外労働は月平均で、小学校53・9時間、中学校51・2時間だったが、取り組みの成果はどうか。

教育長 昨年度全体での月平均は、小学校で44・4時間、中学校で39・9時間となっている。

宮田 今後の取り組みはどうか。

教育長 業務の時間短縮と子どもにきちんと向き合える体制の両方を行って行きたい。

Q. 立地適正化計画で住居が増えるなら、通学路を学校の整備、上下水道の整備と宅地造成、災害対策などを行うべき

A. 都市計画区域と周辺地域を結ぶ交通網の整備、公共施設の再配置を行う



ここを聞きました

石部 誠

- 市民負担がふえる行財政改革は進めるべきではないと考えるか
- 過年度災害復旧工事等の未払金発生事件における再発防止策は不完全ではないか
- 市の進める立地適正化計画は過疎を進め周辺地域を切り捨てることにはならないか

三 過年度災害復旧工事等の未払金発生事件における再発防止策は不完全ではないか

石部 未払金事件の原因については「①所属内の情報共有」「②上司や所属長への報告、相談」「③管理職の監督責任」の3つが上げられている。しかし、再発防止策には、①、②については、詳しく言及されているが、③の管理職の監督責任の再発防止策について記述が全くなく問題である。

副市長 市長を含め関係した職員を処分した。既にルールがあり、責任の取り方を決めているので、それが歯止めになる。

四 市の進める立地適正化計画は過疎を進め周辺地域を切り捨てることにはならないか

石部 立地適正化計画は、人口を市街地へ集積することにより過疎

に拍車がかかるのではないかと市民説明会で、会場参加者から住居の集積が行われるなら「成羽の用水管理などで住宅用地の整備を」「学校や通学路の整備が必要」「近似が住居移動先となっているが災害危険区域であるが」「栄町商店街に商店が増えるなら駐車場の確保」など出された。こういった問題を解決する計画が立地適正化計画ではないか。

産業経済部長 高梁市の都市計画区域は4%。この区域と各地域（地域局等）交通ネットワークで結ぶ公共施設の再配置で2つ以上生活に困らないようにするのが計画である。

石部 市街地に住宅、店舗、施設等が移設する場合には補助や支援制度を設け特別扱いをするのか。

産業経済部長 団地造成など事業を優先する場合はあるが、区域を特定して行うことはない。

一市有財産の活用、処分について
黒川 市有財産のうち、現在では活用されなくなった建物等については行財政改革の中で検討されていると思うが、中にはいまだに何年も放置されている物件がある。市は空き家対策に力を入れているところであるが、市有財産についても放っておけば草刈りなどの維持管理も発生するし、危険な状態にもなってくる。そうした市有財産の活用、処分についてどの様に考えているのか。

であり、基本的にはもう活用できないため、壊さなければならぬものと考えている。その他の施設についてもたくさんある。活用についても民間、地元ともに用途に苦慮されており、なかなか進まないで現状である。用地については、実に21平方メートルあり、今後、売却も含めてどのように管理していくかが課題であり、検討しているところである。

黒川 市有財産施設の周りの草刈りなどの維持管理についても、放置しておくだけでなく、地元との協議の中で、地域を存続させるための協働作業として検討していただきたい。

市長 これからも地域との話し合いも行っていく、課題解決に努力したい。

Q. 市有財産のうち、現在、活用されなくなった建物等について、中には何年も放置されている物件がある。草刈りなどの維持管理も発生するし、危険な状態にもなる。そうした市有財産の活用、処分について、どの様に考えているのか

A. 用地について21平方キロメートルもあり、今後、売却も含めてどのように管理していくかが課題であり、検討しているところである



ここを聞きました

黒川 康司

- 立地適正化計画について
- 町内会支援制度について
- 市有財産の活用、処分について
- 成羽複合施設（仮称）整備について
- スクールバス運行について

Q. 就学援助の入学用品費支給について、前倒し支給すべきではないか

A. 平成31年度の新入学者から入学前支給できるよう前向きに検討する



ここを聞きました

川上 博司

- 中小企業の設備投資を促す制度について
- 市営住宅の入居について
- 就学援助について

一就学援助について

川上 就学援助は生活保護世帯に近いと市が認めた準要保護児童生徒が対象で、新入学用品費はランドセルや制服などの購入費の一部を補助する制度である。対象者は前年の世帯収入を基準に認定しているため、学用品費の支給は入学後の8月ごろとなっている。他市でも実施しているように、保護者の負担を軽減するため入学前支給すべきではないか。



教育長 就学援助の性質や他市とのバランスを総合的に考え、平成31年度に入学する児童生徒に対し、平成30年度中に新入学用品費が支給できるよう制度の変更を前向きに検討する。

Q. 中学校の部活動はどう変わるのか

A. 小・中学校の垣根を越えて、あるいは学校と地域の垣根を越え、しっかりと計画的に総合的な策を練っていききたい



ここを聞きました

伊藤 泰樹

- 財政構造改革の中での公有資産の考え方について
- 市道、農道、林道等管理のあり方について
- 中学校の部活動に高梁市学校再編推進審議会の答申をどう生かすのかについて

一 公有資産の考え方について

伊藤 公有財産の処分、未利用地の活用はどうなっているのか。

総務部長 全体としては、公共施設の再編計画の中で、具体的な検討をすることとしている。

伊藤 成羽地域の今回の集約複合化に伴う跡地利用は決まっているのか。

教育次長 決まっていない。

伊藤 下原地域に公園を造っていただきたい。

市長 公園は必要だという認識はある。街の土地利用を検討し、前提条件でクリアしなければならぬ課題がある。その上で、公園はどうあるべきか。どこにあるべきか議論すべきである。

伊藤 管理できない植栽等緑化は造るべきではないのか。

総務部長 維持管理が適切にできないということとは、かえって景観を損ねることになる。今後は、管理面を十分に検討した上で、設置場所や規模等を配慮していきたい。

市道、農道、林道等管理のあり方について

伊藤 道路維持管理団体の公募はできないだろうか。

産業経済部長 任意団体等公募しての維持管理については、分析をしながら検討していきたい。

伊藤 旭川荘望の丘ワークセンターの落ち葉堆肥の事業を推奨できないか。

産業経済部長 環境面から素晴らしい取り組みである。道路環境美化、維持管理という面では、手上げ方式のような形で、モデル事業としてやることを検討したい。

Q. 消防庁舎の改築計画はどうか

A. 適切な場所と優良な財源があれば検討に入る用意をしている



ここを聞きました

宮田 公人

- 郡部幼稚園の休園におけるルールづけについて
- 消防庁舎の改築について
- ごみ処理施設の維持、更新計画について
- 職員の再雇用、再任用の現状について
- 「旧朝霧温泉ゆ・ら・ら」の活用に向けた取り組みについて

郡部幼稚園の休園におけるルールづけについて

宮田 松原幼稚園は園児4名という内規を満たすことができず平成30年度から休園となった。市内の幼稚園の園児数は減少傾向にあり、今後、行政の規則に適合しないことによる休園が増加すると考えられる。そうした中で、保護者の負担、兄弟の就学関係等を考慮した一定のルールづけについての考え方を示すべきではないか。

健康福祉部長 地域の事情と教育効果を考慮しながら対応したい。

消防庁舎の改築について

宮田 消防庁舎の改築は急務と考えるが方針はどうか。

副市長 適切な場所と優良な財源があれば検討に入る用意をしている。

る。現時点では消防本部内での検討段階である。事業実施については、議会と議論しながら進めていきたい。

職員の再雇用、再任用の現状について

宮田 管理職にあった者を、特定任期付職員として再任用すること、市役所組織、職員に与える影響をどのように考えているのか。

副市長 通例で3年間の期間が付与された任用制度である。公務員改革の途上であり、今後、しっかりとした制度を確立したい。組織運営については私と、市長の責任において円滑に運営することが責務と考えている。

高梁市歴史的風致維持向上計画について

森 市長は、この9年間の取り組みをどのように評価しているのか。

市長 住民の皆さんの意識が変わりつつあるのは、プラスの評価だと考える。ハード的な整備の遅れは評価に値しないと思う。

森 この計画の期間は平成31年度までだが、以降も継続するのか。そして、内容の変更はあるのか。

市長 平成32年度からの計画（二期計画）に未着手の事業を計上するかどうかを検証する。高梁市から歴史的風致を取ることはできないと考えるので、引き続き進めさせていきたい。

Q. 近年のトレッキングブームから備中松山城北側の整備が必要ではないか

A. 自然歩道については県の管理であるが、しっかりと協議して整備を進めていく



ここを聞きました

森 和之

- 高梁市歴史的風致維持向上計画について
- 松山踊りについて
- 備中松山城について
- 水道料金の改定について

上水道と簡易水道の統合について

森 高梁市水道経営審議会からの「健全な水道事業の運営について（答申）」が示されて1年が経過するが、答申どおり平成31年4月から料金を引き上げるのか。

副市長 国が示した最終の時期（上水道と簡易水道の統合）は、平成32年4月を想定して作業を進めている。

森 市民負担が軽減するように国に要望できないか。

副市長 国がイメージしている水道統合とは、高梁市、真庭市、新見市など中山間地域とは実状が異なっている。負担軽減の支援を継続するよう関係団体と連携して国に要望していく。

進捗報告!

高梁市養護老人ホーム・成羽認定こども園建設工事

平成29年5月に着手した施設建設工事は、平成30年8月末竣工を目途に進められています。駐車場や遊具設置など外構工事は、その後に施工される予定です。



施設全景とリニューアル中の体育館



成羽認定こども園と園庭



工場中の高梁市養護老人ホーム

7月
豪雨災害

特に災害弱者と
言われる方々への
対応、情報提供の
在り方、避難場所
の設定や物品の備
蓄、生活再建への

私たちも市内各地で対応を行って来ましたが、いつ起こるか分からない災害への心構えや防災対策、発生時の初期対応の在り方が求められていることを実感しました。

7月23日集計での被害状況は家屋の被害が689件、道路や河川など建設課関係が1031件、農林課関係が914件、その他公共施設でも多数の被害が発生し市民生活に大きな影響を与えました。

7月5日から7日にかけて記録的な豪雨があり河川の増水や土砂崩れなどから各地の避難所に最大2540名が避難し、災害対策本部への救助要請や問い合わせは2000件を超えました。



全国から届いた支援物資



浸水したクリーンセンターの全景



浸水したクリーンセンター内のプラットフォーム

支援、そして安全なまちづくり等々課題は山積みです。

今号の議会だよりは、6月定例会を中心に編集しました。これから災害関連議案が審議されますので、内容は次号以降に掲載させていただきます。

災害に遭われた方々にお見舞い申し上げ、1日でも早い再建に向け私たちも努力していきます。

議会事務局に寄せられた
市民からの声を紹介します

高梁市図書館について

(要約)



議会だより2018年5月号を見ました。最後のページに高梁市図書館のことが書いてありますが、その中で、改善点の指摘が何点か上がっています。このことについて議員はよく理解しているのでしょうか。議員は実際に図書館を利用したことがあるのでしょうか。特に3階にトイレがないので、トイレに行きたい時には4階に上がるか、2階に降りるしかありません。3階にトイレを増設するよう、頑張ってください。

また、歩く靴音がうるさいので注意したら静かになりましたが、職員の使う台車の音も気になります。静かに読書できる環境を整えてほしいです。議員は執行部に対して改善提案を出すなど、もっと努力してほしいです。

編集後記

この度の7月豪雨災害により、被災された皆さまに対し、お見舞い申し上げます。

議会広報公聴特別委員会では、開かれた議会、わかりやすい議会。何をどうやって、どんな形で市民の方々に対して伝えればいいのかといったことを常に検討しています。また、4月に開催した議会報告会。そして、この議会だよりにしても、毎回委員7人が頭を悩ませています。

日々研鑽し、期待に応えるべく努力をしておりますが、至らぬ面もあるかと思われまので、皆様から御意見、御感想を御聞かせいただければ幸いです。

末筆になりますが、暑い夏、皆様健康に十分留意されまして、お過ごしください。

(伊藤泰樹)

編集

委員	委員	委員	委員	委員	委員長	委員長	議会広報公聴特別委員会
伊藤泰樹	森和之	森上昌生	石井聡美	石部誠	石田芳生	宮田好夫	